

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3370301115		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム久米Ⅰ（1ユニット）		
所在地	岡山県津山市久米川南2551-1		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301115-00&PrefCd=33&Version=1

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を第二の我が家とし、利用者が自分らしい生活が送れるよう利用者一人ひとりの心身の状態と思いに応じた暮らしに笑顔と優しさで寄り添い、職員と利用者の心が通う温もりのある共有共存の生活空間が提供出来る運営に取り組んでいます。また、24時間対応可能な協力医との連携で、利用者が体調良く過ごせるように支援しています。利用者が楽しく穏やかな空気の中でゆったりと生活していただけるよう、職員はいつも思いやりを持って優しい言葉で声掛けし、目配り・気配りを行い心に寄り添うケアを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「第二の我が家」として、利用者一人一人の希望と願いを尊重し、我が家のように自分のペースでゆったりとした空間で穏やかな温もりのある生活が送れるようサポートしている。また管理者と職員は理念を共有し、定期的にケア目標を掲げ実践につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域行事に参加し地域とのつながりを持っている。中学校の文化祭への参加、職場体験実習の受け入れをし子供達とふれ合い、実習が終わってからも来訪して下さり、関わりを持っている。また毎年、秋祭りにはだんじりを引いた地域の子供達が来て下さり交流を図っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々に参加していただき、認知症についての勉強会を行ったり、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人の理解の輪を拡げている。また、入居に関する問い合わせだけではなく、現在困っていることに対しての支援方法など地域の方に発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の体調や生活の様子、日常の近況報告をしている。家族からの質問、要望等を出して頂き、意見交換をする機会にしている。家族の意見、要望については改めて検討し、日頃の対応に取り入れサービスの向上に活かしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター、市の担当者出席して頂き、常に新しい情報を提供して頂いている。些細な質問、相談事項があれば、すぐに相談し敏速に対応して頂き、大変心強い。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修会に参加し、随時ミーティング等で話し合い勉強会を開催している。身体拘束をしないケアを前提に、利用者が安全に自由に過ごせるよう、意見を出し合い身体拘束防止に取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会に参加し、高齢者虐待防止関連法をミーティングで学び意見を出し合い共有している。もしかしてこれは虐待にあたるのでは？と思うことがあれば直ぐに管理者、職員間で共有し見過ごされる事がないように防止の徹底を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	どちらの制度も、利用者が活用している。管理者が研修会に参加し制度について学ぶ機会を持ち、ミーティング等で職員に情報提供し成年後見制度や日常生活自立支援事業を理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所時に契約書、重要事項の説明をゆっくりと丁寧に時間をかけて行っている。説明の途中途中で理解納得が図れているか確認し、再度説明終了後、疑問や不安点等がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時は、家族等とゆっくり面談して、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、気軽に何でも言ってくれる雰囲気作りを行っている。意見、要望があれば可能な限り対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見、提案がある場合はミーティングにて意見交換し、問題解決、改善できるようにしている。個人面談の方が良い場合はゆっくりと話せる時間を設けている。また随時、代表者と職員の意見交換ができる機械を設け運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの個性、得意分野を尊重し、業務の中でイキイキと実践することで、やりがいにつながるよう働きかけている。また一人一人の評価、実績に応じ給与面に反映し、各個人が向上心を持って働ける職場環境となっている。随時雇用条件についても相談に応じ好条件となるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は定期的に研修を受けスキルアップを図る機会が確保されている。職員は一人一人の力量を把握し個々に適した外部研修に参加し、内部研修では介護技術、認知症知識の習得ができるよう育成している。また資格取得に際し積極的に講習、研修等を受けれるよう取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3～4回程度は、他施設の見学をし職員と交流をしながら現状把握と情報交換をし、新しい情報は取り入れ、実践しながら業務に活かしている。また他施設の管理者と定期的に交流会を持ちサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、ケアマネージャーの情報から性格、こだわり、行動パターンなどについて把握したうえで、関係作りを進めていき、本人の困っていること、不安なこと、要望等にしっかり耳を傾け本人が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とゆっくり面接して、困っていること、不安に思うこと、要望等に傾聴し常にご家族の立場になって、関係作りに努めている。また一番に利用者本位を尊重しながら家族との信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族、ケアマネージャー、医療関係者等の専門職から情報収集し、生活全般を捉えたうえでサービスを提案し、本人の機能向上を図れる支援を目標に行っている。また、他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の大先輩で職員が寄り添いながら協働し、普段から色々な場面で色んな事を教えて頂きながら信頼関係を築いている。利用者が活躍発揮できる環境作りを提供し一緒に支え合いながら暮らしを共存している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は職員と家族の交流の機会でもあり、日頃の状態をお伝えし、家族の思いを聴き、利用者の思いも伝え、本人と家族との潤滑油となり、家族との絆を大切にして関係作りを構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間帯等の制限をせず24時間、365日受け入れています。また、外出、外泊などの機会が持てるよう家族、友人関係にも働き掛けている。また定期的に友人宅に訪問し関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染の関係になれるよう、コミュニケーションが円滑にできる空間作りに努めている。一人ひとりが孤立しないよう、気が合う、趣味が同じ等の利用者との関係を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方、(多施設に移られる)必要に応じ情報提供し、家族の相談、支援に努め、定期的に電話で経過等お聞きしている。医療機関に転移になった場合でも定期的にお見舞いに行きご本人をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常会話、言動から今の思いや要望を把握し、利用者の思う暮らしに近づけるよう環境を整えている。また利用者の潜在している能力を引き出し、まだまだ本人に出来ることがたくさんあるという喜びを感じ、生きがいが、楽しみに繋がるよう一人ひとりの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に在宅での暮らし方や生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握し、また日々の会話の中から、ご本人、家族より生活歴、暮らしぶりを聴きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの出来る事出来ないことを把握し、残存能力を確認しながら、少しでも現状を維持でき、生きがいが、満足感、達成感が得られる暮らしが出来るよう、日々身体状況の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族より意向を聞き本人のより良い望む暮らしを提供できるよう、課題とケアの在り方について職員間で定期的にモニタリングを行い、利用者の生活の質の向上を目指し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に身体状況を把握し、食事、水分量、排泄、入浴、日々の様子、本人の発言、エピソード等を記録している。個別記録をもとにミーティング等で職員間で情報共有し実践、分析し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し状況に応じて、病院の付き添い、通院時の対応等、必要な支援は柔軟に対応し個々のサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援、市の職員、地域の交番より参加してもらい地域資源等、様々な情報提供をいただき、安全な暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携ができ、2週間に一度往診があり、異常があればその都度往診に来ていただき、安心して医療が受けられている。必要があれば、医師の指示を仰ぎ受診対応も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護があり看護師が利用者の身体状況を細やかにチェックしていただき、異常があれば迅速に、ドクターに連携していただける。また、その都度相談、助言があり、適切な看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関に情報提供し医療連携を行っている。看護師、相談員と細やかに連携を取り早期に退院できるよう努めている。また退院後、今後のケア方針を明確にするため、家族を含め他職種とカンファレンスを実施し医療機関と協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い、身体状況の変化に応じて、その都度話し合い、ご本人、家族の意向を確認している。終末期に向けてのあり方について内容を深め、かかりつけ医、訪問看護と連携し共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は年1回、救急救命法の講習を受け体験をしながら実践力を身に付けている。また、ミーティング等で緊急時の対応について定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を年2回行っている。地域の消防団員の方にも参加していただき、非常時も協力体制を依頼している。水害・土砂災害では地域との協力体制を築き定期的に机上訓練を行って災害対策を身につけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ介助のさいのドアの開閉に注意し、利用者一人ひとりの人格を尊重し敬意の念を忘れず、一人ひとりに合った言葉掛けやプライバシーの確保ができるよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時等、ゆったりとした時間の中で職員と会話を楽しみ、日頃の思いや希望を打ち明けて頂けるよう働きかけている。また個別にドライブをし気分転換を図りながら日常の思いや希望を表出してもらい自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員に目配り、気配りし、毎日違う利用者の個々の状態を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にし、何をしたいのか希望を聴き、また潜在している能力を引き出し日々その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは好みの衣類を職員と一緒に選び、2ヶ月に一度の散髪は美容師に来ていただき希望の髪型に切っていただいている。化粧品、衣服の購入は、利用者と一緒に買い物に出掛け自分の好みの物を選びおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みの食事を積極的に聴き取り入れながら準備し、毎日食べる楽しみを持っていただいている。テーブル拭き、食後のお膳の片づけ等、一緒に行っている。毎年恒例の干し柿作りは利用者と職員で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分摂取量のチェックを行い栄養バランス、水分量の確保をし、一人ひとりの状態に合わせて支援している。体調不良のさいは、お粥、雑炊、栄養補助食品等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度一人ひとりに、声掛け介助し口腔内の状態を把握し、必要に適したブラシ、義歯洗浄剤を使用し口腔内を清潔に保ち、気持ち良い状態で過ごしていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を記録し排尿間隔を把握しながら定期的に声掛け、誘導し排泄の失敗を減らしている。また排泄の動作能力と協力動作がどこまで出来るかを把握し一人ひとりの持っている力を引き出した支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽く体操をし、食事には繊維の多いものを出来るだけ多く摂取するよう取り組み、それでも便秘の方には医師に相談し、下剤を服用して予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の前にバイタルを測定し、一人一人の健康状態を見極め、希望やタイミングに合わせて気持ち良く入浴していただけるよう、午前午後と2回に分けて週3回入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に応じ居室で休まれる方、ホールで会話を楽しんでから休まれる方、その時々状況、生活習慣に応じて支援している。ホールではゆったりとしたソファに座り休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬についての説明は記録ファイルに綴じその都度確認できるようにしている。職員は薬の副作用、用法、用量について確認しながら、一人ひとりの服薬支援を行っている。服薬後の症状の変化は職員間で把握し医療につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除に自ら手伝って下さる方に参加してもらったり、洗濯たたみや居室のゴミ捨てを日課とし役割を持つことで喜びのある日々を過ごしている。また、リハビリを兼ねながら広告、新聞折りをしたり、縫い物が好きな方には雑巾を縫って頂き楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望、希望があり、可能な限り対応をするよう心掛けています。利用者全員で外出するさいは、休みの職員のボランティアがあり安全に出掛けられる。また地域の行事で外出するさいは、地域の方の協力体制があり外出支援が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症により利用者による金銭管理は難しいため、金銭は所持されていません。物品の購入の依頼があれば、家族に依頼するか職員が購入し一人一人の希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話が出来る方にはしてもらい、難しい方は職員が電話を掛け、話しをしてもらっている。手紙や年賀状が書ける方には、家族、友人あてに毎年送り、大切な人との手紙のやり取りが継続出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	女性の利用者が多いため、玄関、ホールには季節の花を飾って季節感を味わえる空間にしている。利用者が作成した塗り絵や貼り絵を廊下の所々に貼り定期的に交換している。ホールには大きなソファがあり、そこには利用者が集まりテレビを観たり居心地の良い温もりのある空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから直接テラスに出れる空間があり独りで外の空気を吸って景色を眺めたり、椅子に座って気の合う利用者同士でコミュニケーションが図れる。独りで座ってくつろげるソファでリラックスし、またホール自席で思い思いに過ごせるような居場所づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や寝具などは、使い慣れたものを持ち込んで使用してもらっている。定期的に家族に衣類の交換をお願いし好みの服を着て楽しんでいる。家族の写真や、神社のお札、位牌なども持ち込まれ居心地よく過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名札を掲げ、トイレの扉には大きな切り絵でトイレと分かりやすく表示しています。居室内は利用者の行動パターンを把握し、危険のないよう家具の向きやベッドの位置など調整し、安全に過ごせるよう工夫している。		